

「フジの会事故防止学会！！」優秀作品の結果発表について

社会福祉法人フジの会では、様々なサービスを提供しておりますが、どのサービスにおいても事故が起こる可能性はゼロではありません。事故が起こることを想像すると身が縮まり、不安要素ばかりに目が行ってしまいます。しかし、「事故防止」の観点で、研究や勉強を進めると、実際に事故が防げるだけでなく、万一事故が起こったとしても、被害を最小限にとどめることができます。また、事故の本質や本来目を向けるべき課題などが明確になってきます。社会福祉法人フジの会では平成30年度の事業計画として、各部署で起こりうる事故について課題（法人内外で過去に起こった事故の事例）を定め、1年を通して、それらの防止策等の研究を行い、800～2,000文字以内（図表等の参考資料除く）にまとめました。

各部署より提出された研究結果を、社会福祉法人フジの会顧問弁護士であるアーネスト法律事務所の三宅勇氣先生を審査委員長とし、法人役員一同で審査致しました。

結果、以下参照の論文を優秀賞として表彰することといたします。三宅先生には、事故防止というリスクマネジメントの観点から弁護士の視点を取り入れて、評価をしていただきました。

【参考】

評価にあたってのチェックリスト

問題意識の提示

調査（対象データの量，信頼性）

調査結果の分析（客観性・説得性，視点の明示など）

対策の検討経過（調査結果との関係の明示，視点の明示など）

対策の評価（設定した課題解決に資するか，実践と再評価の有無など）

その他（全体的な読みやすさ・説得性，実務での利用可能性など）

以上

金 賞

「グループホームの過去4年間における事故を数値化し、対策が適正であるかを研究」

グループホーム モーツアルトいのり 鳥居佳弘

【講評】

4年間に及ぶ豊富なデータから原因・傾向の分析を行っており、その分析結果の信用性が担保されている。対策については、2例を挙げて、それぞれのリスクに応じた対策の立案、実行、評価の過程が明快に示されており、効果にも表れている。安全対策には、全体・個別、抽象・具体の両面からの検討が有用と思われるところ、本論文では、その点が意識的に検討されている点で高く評価した。

銀 賞

「夜間でも安心できるケアハウスの防犯体制について」

ケアハウス プラスしこうえん 高田和也

【講評】

相模原市の事件という明確な問題意識の提示から始まり、現状の作業フローの見える化を行い、人的物的な制約があることを踏まえて、そのフローのうちで人員配置やフローの見直しで改善できる箇所を検討し、実施するという過程が示されており、現場主導の業務改善の好例といえる。

銀 賞

「園における乳幼児期の事故の傾向と対策について」

モーツアルト兵庫こども園 松嶋聡実・杉井彩樺

【講評】

5年間に及ぶ豊富なデータを場所、事故種別、怪我種別、年齢別といった複数の観点で分析し、適切に原因と傾向の分析がなされていた。検討した年齢別の原因と傾向に即して、指導の在り方、施設管理の在り方という二つの軸からの対策が提言されていた。今後、対策を講じたあとの経過とそれに対する評価が法人内で共有されることを期待したい。

銅 賞

「転落事故について分析し、自部署内の課題を明確化する」

モーツァルト兵庫駅前 特養 森脇かすみ

【講評】

本論文では、好発のシチュエーションや素因ではなく、利用者の主観的な要素に着眼して事故の予測を図ろうとした点で興味深い。使用ツールでは、丁寧な行動観察が行われており、不穏症状等の予測だけでなく、心理面でのケアにも資するものと思われる。全件でのツール使用は困難かもしれないが、適応事例を限った実践は有益と思われる。

銅 賞

「リスクマネジメントに着目し、センターマットの必要性を考え直す」

みやびのその 特養 櫻井敦子

【講評】

現場で多く起こる転倒やベッドからの転落事故に着目し、ゲスト・職員・環境という3側面からのアプローチを整然と論説していた。

日本看護協会の転倒・転落アセスメントシート等を参考にし、科学的に要因を分析したことも評価できる。

※所属は、論文提出時現在の部署とする。

以上